

2021年2月25日

2020年度聖路加国際大学大学院看護学研究科課題研究

地域における女性の健康増進活動に関する文献レビュー

A literature review on community-based women's
health promotion activities

学生番号 19MN013

氏名 佐藤愛子

要 旨

【目的】

地域における女性の健康増進活動に関する文献検討を行い、健康増進活動の対象者を、女性のライフステージおよび特徴によって分類した後、1)実践した健康増進活動の内容、2)成果と実践上の課題、3)地域連携の課題について探求することを目的とした。

【方法】

医学中央雑誌 web と CiNii のデータベースを用いて、女性の健康増進活動に関する文献検索を実施した。地域・家庭・職域・教育現場において、女性の健康増進活動がどのように実践されているのかについて記述された文献を選定したところ、計 60 件の文献が対象文献となった。

分析方法は、まず、対象文献を「健康増進活動の対象者」「関与した専門職種」「実践した健康増進活動の内容」「成果と実践上の課題」「地域連携の現状と課題」の 5 つに分類した。その後、「健康増進活動の対象者」をライフステージおよび特徴を踏まえ分類し、それぞれの対象者に応じて、具体的にどのような健康増進活動が実践されたのかを整理した。

【結果】

女性を対象に実践した健康増進活動は、[思春期女性を対象に実践した健康増進活動][性成熟期女性を対象に実践した健康増進活動][妊娠期から育児期にある女性全般を対象に実践した健康増進活動][外国人妊産婦を対象に実践した健康増進活][就労妊産婦を対象に実践した健康増進活動][ハイリスクまたは特定妊産婦を対象に実践した病院の取り組み][更年期女性を対象に実践した健康増進活動][対象者のライフステージを限定せず実践した健康増進活動]の 8 つに分類された。

【結論】

女性を対象に実践した健康増進活動には、女性のライフステージごとに、すなわち、思春期、性成熟期、妊娠期から育児期、更年期における心身の特徴、疾病のリスクに応じた健康相談や健康教育が求められている。しかし、女性のライフステージに配慮するだけでなく、就労妊産婦、外国人妊産婦、ハイリスクまたは特定妊産婦の支援も重要である。一方で、[対象者のライフステージを限定せず実践した健康増進活動]は、幅広く柔軟に活動できるといふ特徴を持っており、健康の維持増進や疾病の予防という観点において、女性の健康増進活動に貢献する可能性がある。